
碎けた夏

バロック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砕けた夏

【NZコード】

N4347M

【作者名】

バロック

【あらすじ】

朝日奈誠は、学校を代表する野球部員だった。だつた。

医者が言つには、もう野球は諦めたほうがいいらしい。

一年間、野球どころか運動全般をしなかつたとして、それでも、以前のようには投手として投球するには無理だろうし、他のポジションでもまともなパフォーマンスが出来る可能性は低い。

それは、プレイヤーとしての死を意味していた。

どうしてこんなになるまで投げ続けた？

両親を含め、多くの大人達がそんなことを聞いてきた。俺は応える気にもなれず、無視を決め込み、学校に行かなくなつた。
お前ら、気付いてなかつたのか？ それとも知らないフリをしているのか？ お前らが俺にどれだけのプレッシャーを与えていたか、マウンドに縛り付けていたか。

天才投手、朝日奈誠。

そんな大袈裟な看板を背負わせて、その上、それを自慢したいが為に乱暴に扱つて。

学校は、俺を見せ物した。

そんな看板、欲しくなかつたのに。俺はただ、野球を続けていたかつただけなのに。

くそ、くそ、くそ！

そして、何より許せないのがチームの連中だ。

朝日奈が出れば勝てる、という思い込みにとり憑かれたあいつらは、ピンチであろうとなかつと俺を登板させた。
連勝に浮かれていた監督は、それを止めてくれなかつた。
誰も止めてくれなかつたから……だから、壊れたんだ。
野球しか出来ない俺から、野球を奪つたんだ！

死ね、死ね、死ね！

全部、壊してくれ！！

塞ぎ込むだけの日々に嫌気が差した俺は、ある夜、裏門から学校敷地内に入った。普段使っている出入り口は当然のようすに施錠されていて、普通の方法では侵入不可能だと分かる。

金属バットを握る手が、緊張と不安から嫌な汗を吹き出した。こうするしかない、と分かっていたけど、それでも指が震えた。

目の前の窓ガラスを見る。これをぶち破つてしまったら、もう後戻りは出来ない。復讐の一晩は始まり、同時に未来は碎け散るだろう。

だけど、

恐くない。そんなもの恐くない。俺の未来はもうとっくに磨り潰されている。ここに連中にやられたんだ！

復讐心で心がいっぱいになり、気がつけば、痛烈な破裂音が鼓膜を震わせていた。

少し前までよく通っていた廊下。その窓ガラス十数枚を、勢いに任せて全部割つた。

外の世界と繋がつて、廊下にセミの鳴き声が木霊した。それはまるで、悲鳴のようにも聞こえる。

ははは。これで明日の朝には大騒ぎだ。

次に向つたのは、二つの校舎を繋ぐ渡り廊下。その一面に、持つていたカラースプレーで落書きをしまくつた。工具店で適当に購入した三色を使って、不満を形にする。

『全部、お前らのせいだ』

そういう風なことを、適当に書き殴つた。ふと手を止めると、渡り廊下はこれまでになくカラフルな有様になつていた。

それは妙に心惹く芸術性を孕んでいて、更に手を加えずにはいられない。

どうせ破綻しているんだ。目的と手段を履き違えることに躊躇い

はなかつた。

落書きに熱中してしまつて、予定の時間がズレてしまつたが、まあ、気にしない。あと潰したい場所といつたら一つしか思いつかなかつた。

乱暴な方法で職員室に入り、馴染み深い鍵を手にして校舎を後にした。

グラウンドに田を向けて最初に飛び込んでくる建物。その一階が野球部の部室だ。小窓があるだけのそこに入るには、どうしても鍵が必要だった。

扉を開くと、埃っぽいような、湿っぽいような独特の空気が肌を温める。

懐かしくなんてない。潰してやるさ。

電気を点けてすぐさまに、バットを振りかぶつた。

金属のへこむ鈍い音が、夏の蒸し暑さを散らした。汗を搔いても息が切れても、何故だか体は疲れを忘れたように、暴れ続けた。

二年間、毎日のように通っていた部室は、あつという間にゴミ箱になつた。

「ざまあみろ」

呴いた瞬間、ボコボコになつたロッカーの一つが開く。そして、ぱたりと何かが落ちた。

手にとつて確かめようとして 息が止まりそうになる。

『「じめん!』』『無理させて、ほんと悪かった』『これから俺達もつと頑張る』『許してくれとは言わない。ただ、帰つて来てくれ』『先輩、俺の投球見てください』『おれもおれも』『朝日奈がいないとまともねーんだ』『誠、飯食いに行こうぜ、飯』『もちろん、ワリカンでな』

それは、野球部員全員からのメッセージが書かれた色紙だった。よく知つたやつから、ほとんど付き合つたやつまで。一人の言葉が綴られている。

苦痛の中でも見失っていたものが、そこには滲んでいて
潰れてしまいそうなほど、心が痛い。

「つるさい！ ほつといってくれよ！ これ以上、俺を苦しめるなよ
！ なんなんだよ、お前ら……今更、遅いんだよ……」

四つ折にして、引き裂いて、握り潰して。

めちゃくちゃになつた色紙に、涙を零して謝つた。

「「めんな

「もつ、戻れないんだ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4347m/>

碎けた夏

2011年1月12日20時49分発行